

やくしまに 暮らして

ネイチャーガイド

大野 睦



第十章

冬の屋久島



はじまりのとき

南の島、南国に冬はないと思われがちであるが、屋久島は日本列島の北から南までの気候や植生が見られる島である。秋があまりはっきりしないままに急に冬がやってくる、と言った印象を受ける屋久島。このツワブキの花が咲くと秋も終盤、そして冬のはじまり

のときを知らせてくれる。

このツワブキが満開になる頃、まだスキもとても綺麗で秋真っ盛りとも言える景色もすぐ隣り合わせに見られる。

もうひとつ、冬のはじまりを知らせてくれるのがぽんかんの収穫。はさみ入れが終わり、本格的に収穫のシーズンとなる。そしてお歳暮の商品として屋

久島から島外・県外へと出荷されてゆく、観光シーズンとしては終わりつつある季節ではあるが、何かと忙しい屋久島の冬のはじまり。



正月



屋久島のお正月は、天津日高彦火々出見命、つまり山幸彦を主祭神として祀る益救（やく）神社では、大晦日から元旦にかけて厄払いの年越し奉納太鼓の演奏が行われ、厳かな時間が過ぎ

てゆく。この益救神社の奥社は九州最高峰である宮之浦岳にあり、山岳信仰の島の歴史が今もなおしっかりと残されている。



また、この宮之浦岳山頂付近の平均気温は北海道・札幌並みの気温であり、この屋久島が日本列島の北から南まで見られることを教えてくれるひとつの証でもある。

そして人々に恵みをもたらしてくれるのは山だけではない。屋久島の北に位置する一湊はサバ漁が行われるところで、正月には海に向けて大きな門松が飾られる。



積雪

私がこの島に暮らし始めた頃には毎年2月に雪まつりが行われていた。北国から雪が届くのではなく、屋久島でも積雪は見られる。毎年12月の初旬には初雪が確認され、寒波などで天気

が荒れ模様になったときには山岳部への道路は積雪や凍結のため通行止めとなり、屋久島の山は人を寄せつけない厳しい季節となる。





北国ならではの緊張感のある凜とした空気が冬の屋久島にも張りつめる。しかしながら森で見られる景色は屋久島独自のものであり、北国とはまた違う。

大野 睦 B L O G

やくしまに暮らして

<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>